

事業コード	H23-建-継-04		区 分	国庫補助 県単独
事業名	地方道路交付金事業費(交通安全)		部局課室名	建設交通部 道路課
事業種別	地方道路交付金事業(交通安全)		班 名	道路環境・維持班 (tel) 018-860-2494
路線名等	一般国道282号		担当課長名	柴田 明
箇所名	鹿角市湯瀬		担当者名	主幹兼班長 菅原 喬
総合計画との関連	政策コード	15	政策名	安全・安心なまちづくり
	施策コード	01	施策名	安全・安心な地域づくりの推進
	指標コード	04	施策目標(指標)名	交通環境の改善

## 1. 事業の概要

事業期間	H18 ~ H24 (7年)		総事業費	17.3億円	国庫補助率	7/10
事業規模	延長 L=980m 幅員 W=6.5(12.0)m(1.5-3.25-3.25-1.5-2.5)m					
事業の立案に至る背景	<p>国道282号は、岩手県盛岡市を起点に秋田県鹿角市を經由して青森県平川市に至る幹線道路であり、十和田八幡平国立公園の観光拠点を連絡する観光道路としての機能を有するとともに、各生活圈相互を連絡する生活道路として、また冬期においては安代IC~鹿角八幡平IC間閉鎖時に高速道路の代替えを果たす重要な路線である。しかし当該区間は幅員狭小(W=5.5m)、急カーブ(R=50m)で歩道も無く、大型車同士のすれ違いや歩行者の安全に支障をきたしており、積雪時にはその度合いが著しい。当該路線は、第一次緊急輸送道路に指定されており、広域的な幹線道路として安全で円滑な交通の確保を図るため、道路整備を行うものである。</p>					
事業目的	<p>大型車のすれ違い困難箇所の解消(地域づくり支援)  交通安全指定路線における歩行者の安全確保(安全な生活環境の確保)  第一次緊急輸送道路としての機能確保(防災・危機管理の充実)  高速道路のリダンダンシー強化(安代IC~鹿角八幡平ICの冬期通行止め 昨年度の冬期間9回)  観光支援(十和田湖~八幡平~田沢湖等へのアクセス向上)</p>					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等
	事業費		1,440,000	1,728,000	288,000	
	経費内訳	工事費	884,000	1,062,000	178,000	切土区間の補強土壁工の増
		用補費	452,000	451,000	-1,000	用地面積の精査による減
		その他	104,000	215,000	111,000	埋蔵文化財発掘調査の増
	財源内訳	国庫補助	720,000	933,000	213,000	事業費の増及び補助率の変更
		県債	288,000	772,000	484,000	事業費の増及び起債充当率変更
その他		0	0	0		
一般財源		432,000	23,000	-409,000	起債充当率の変更による減	
事業内容		調査・設計 改良工 舗装工	調査・設計 改良工 舗装工		切土区間の土質が当初想定していたものより悪いことが判明し、切土補強土壁工を新たに追加し増となった。	
事業の進捗状況	<p>工事(進捗率63%)及び用地補償(進捗率98%)を進めている  事業進捗率75%(H22年度末)</p>					
事業推進上の課題	特になし					
関連する計画等	<p>ふるさと秋田元気創造プラン「地域医療などを支える救急ネットワークの整備」を支援する事業  鹿角地域振興局重点施策「北東北の観光ゴールデンルート「十和田~八幡平~田沢湖」を核とした広域観光の推進」を支援する事業</p>					
情勢の変化及び長期継続の理由	<p>幅員狭小や線形不良により、特に冬期間は大型車のすれ違いが困難となっている。  大型車両の交通が多く、湯瀬地区の住民が走行する際に非常に危険な状況が続いている。  (大型車混入率30% 県内平均9%)</p>					
事業効率把握の手法及び効果	指標名	歩道整備率				
	指標式	実績延長/道路延長				
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無	
	目標値 a	39 %		データ等の出典	道路課調べ	
	実績値 b	39 %				
達成率 b/a	100.0 %		把握の時期	平成23年4月		

前回評価結果等	選定または継続 改善 見直し 保留または中止
	指摘事項
	事業の実施は妥当である、ただし、歩道の整備については、既存道路の活用など、必要最小限にとどめるべきである。
	指摘事項への対応
	計画区間のうち、起点側及び終点側を現道拡幅の計画（中間点は視距改良により一部バイパス）とし、歩道整備に伴う用地を必要最小限にとどめた。

## 2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 ( 特 記 事 項 )	評 価 点
必 要 性	十和田八幡平の観光道路であり、また交通安全指定路線であるにもかかわらず、幅員狭小で線形不良のうえ歩道も無いため、大型車のすれ違いが困難であり、地域内の安全が確保されていない。	20 点
緊 急 性	高速道路（東北自動車道）の安代IC～鹿角八幡平IC間において、吹雪等の原因による冬期通行止めが昨年度9回（そのうち、大震災の影響で12日間通行止め）あり、その度に約6,000台/日の交通量が当該路線に転換されるため、交通リダンダンシーの確保が急がれている。 大型車混入率が30%の路線であり、湯瀬地区住民の安全を確保するため緊急に整備する必要がある。	25 点
有 効 性	第一次緊急輸送道路に指定されており、防災対策上、整備は有効である。 交通量に応じた車道拡幅を行うことにより、狭小区間が解消され安全性が向上する。	10 点
効 率 性	起点側及び終点側は、現道拡幅のため、早期に事業効果が出現する。 事故状況はH13～H17の5年間で19件発生していたが、事業着手後のH18～H22の5年間で1件に減少している。	10 点
熟 度	H22末で事業の進捗率は75%、用地補償が98%完了しており、平成24年度に事業完となる見込みであり、熟度は高い。	15 点
判 定	ランク ( ) 判定ランクIであり、事業箇所としての優先度は高く、事業を実施すべきである。	80 点
総 合 評 価	継続 改善して継続 見直し 中止 事業継続は妥当である。	

## 3. 評価結果の当該事業への反映状況等（対応方針）

引き続きコスト縮減に努めながら、事業を継続する。
--------------------------

## 4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。
--------------

評価種別 継続箇所評価  
 適用基準名 交通安全事業（歩道）

事業コード(H23-建-継-04 )  
 箇所名 (鹿角市湯瀬 )

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要	
必要性	道路の利用状況					
	1 2 時間自動車交通量	4,000台/日以上 1,000台/日以上 500台/日未満	10 5 0	5	通学路以外の場合 通学路の場合	
	歩行者交通量	100人/日以上 100人/日未満 学童・園児 40人/日以上 学童・園児 40人/日未満	10 5 10 5			
	歩道の連続性	計画区間前後に歩道あり 計画区間前後の一方に歩道あり 計画区間前後に歩道なし	10 5 0	5		
	道路線形の修正 (視距の確保等)	有り 無し	5 0	5		
	計		35	20		
	緊急性	関連事業の有無	有り 無し	5 0		5
		事故状況 (死傷事故)	歩行者の死傷事故あり 歩行者の死傷事故なし	10 0		10
		事故件数	事故件数 6件以上 事故件数 1~5件 事故件数 なし	10 5 0		10
		計		25		25
有効性		交通安全指定道路	有り 無し	5 0		5
	通学路指定	有り 無し	5 0	0		
	公共施設	有り 無し	5 0	5		
	計		15	10		
	効率性	供用開始までの期日	3年以内に供用開始可能であり効果の出現が早い 供用開始まで4年から5年の時間を要する 供用開始まで6年以上と相当時間を要する	10 5 0	10	
計			10	10		
熟度		地元の協力体制	事業に協力的 用地反対等の問題あり	5 0	5	
	地元住民・関係機関の意向	採択時と比べて特段の変化がない 採択時と比べて低下が見られるが改善の見通しがある 採択時と比べて著しく低下し改善の目処が立たない	5 3 0	5		
	進捗状況	進捗が順調で計画どおりの完成が見込まれる 多少の阻害要因があるが解決の見通しがある 阻害要因の難易度が高く進捗の目処が立たない	5 3 0	5		
	計		15	15		
	合計			100	80	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上 ~ 80点未満		
	優先度が低い	60点未満		